

平成26年度和歌山県文化奨励賞

おかざきだんしちおどりほぞんかい

岡崎団七踊保存会

創 立 昭和34年

代 表 西谷暢浩

所 在 地 和歌山県和歌山市

◎ 業績及び経歴

岡崎地区の団七踊は、昭和34年に和歌山県指定無形文化財となり、その保持団体である岡崎団七踊保存会の活動歴は50年を超え、近畿地方に伝承する数少ない団七踊として貴重な存在になっている。

岡崎団七踊は、江戸中期に流行した悪代官志賀団七に父親を殺された姉妹の仇討芝居である「白石噺」を題材に仕立てた盆踊りであり、踊り手がそれぞれ太刀や長刀、鎖鎌など武器を持って仇討ちに奮闘する様子が踊りに仕込まれていることが特徴である。

団七踊は、江戸後期に流行して東北から九州まで全国的に伝わったもので、岡崎団七踊もその一つであり、地元では、江戸への参勤交代に随行した岡崎の郷士が、江戸で流行していた歌舞伎芝居の「白石噺」を観て感激し、村人に伝えようと唄や踊りで表したものだといわれている。

現在、保存会では、踊りを伝承するために、大人だけでなく子どもも踊り手に含め、積極的に後継者育成を図っており、他地区の団七踊が途絶、変容していく中で、本地区の団七踊りは毎年かかさずお盆の時期に、西熊野神社境内を中心に踊りを奉納、公開している。

また、岡崎団七踊保存会は、長年にわたり様々な催しへも精力的に出演し、県内外の民俗芸能公演をはじめ、世界リゾート博、アジアこどもフェスティバル、国民文化祭などの文化交流イベントにも参加している。近年は、地元小学校の課外教育の一環として団七踊子ども教室を開催し小学生に踊りを教えるなど、後進の指導や郷土学習にも積極的に取り組んでいる。

文化財である団七踊の普及・保存・伝承を通して、本県の文化振興に果たしてきた功績は大きく、今後一層の活躍が期待されている。

◆主な表彰歴等

昭和34年 和歌山県指定無形民俗文化財
指定